

北陸民放クラブ活動だより

富山

「奥深いオモトの魅力」

10月23日、第108回秋の歩こう会は53回目を迎えた「富山県おもと展」を初めて観賞しました。会場の県中央植物園には錦鉢に収められたオモト170鉢が整然と並び気品が漂います。

植物の展示会は華やかな蘭や可憐な山野草など花に人気がありますが、手塩にかけたオモトは盆栽同様古風そのものでした。

「なぜこの時期に」と尋ねましたら「作品となるには種や株分けからほぼ5年、葉の姿、形が整うのが秋」と答えて頂きました。因みにオモト(万年青)は、赤い実をつける秋が俳句の季語でした。



第53回 富山県おもと展

見どころの葉は多種多様で、広葉、細葉、剣葉、大葉、薄葉に斑

入り模様などなど。観葉植物の個性豊かな「芸」を楽しめました。

今回、江戸時代に品種改良された代表的なオモトと近代のオモトの対比も展示され、時代を越えて受け継がれてきた貴重なオモトにたいへん勉強になりました。

石川

民放クラブ石川の作品展

永山 徹(ITC)

昨年3月1日から8日までの予定だった作品展、新型コロナのため、あえなく中止になった。作品展は写真、絵画、俳句、結の会など会員各自の一年間の集大成、発表の場でもある。それなら秋開催をと思ったが、会場はどこも一杯の状況だった。

総会や懇親会、暑気払いや各同好会活動など中止休止が相次ぎ、なんとも寂しい一年になるのか! と思っていたところ、県立美術館別館から急ぎよキャンセルが出たとの連絡があったのが昨年9月末の事、11月25日から30日までの開催期間にはまだ十分時間がある。当初予定の作品にするか新作品

か、何はともあれ同好会活動の励みにもなる作品展開催が決まった。良かった!

昨秋は会場のすぐ側に新たに国立工芸館が東京から移転オープンした。期間中、訪れた人は163人であった。兼六園の近くということもあって、遠く県外からの人もいた。国立工芸館オープンの影響もあつたのだろうか。ともかく、新型コロナの下、同好活動や種々のイベントが中止にという中で、会員の集大成である合同展示会が開催できたことは何よりであった。



民放クラブ石川作品展

福井

恒例の「芋煮会」に舌鼓

コロナ禍で総会を含めイベントをことごとく中止してきたが、11月6日、感染防止策を徹底して「芋煮会」を開催した。会場は福井市から車で40分ほどの大野市の山

間部、福井放送OB・山村咲子さんの自宅。大野市は里芋で名高いが、特に上庄地区のものは煮崩れしないことで有名。参加した17名は、まず料理のバリエーションに驚いた。山の幸ばかり10品目がテーブルに並んだ。しかも完全に精進料理。

「全料理を紹介しよう」

定番の里芋の煮っ転がし・里芋のおはぎ・里芋入りの赤飯・赤ズイキの茎で作った酢の物(地元ではスコと呼ぶ)・ゼンマイの和え物・大根と人参の千切りに梅干しと葉ワサビを加えた酢の物・まくらこんにやくの煮付け・合わせ柿のサラダ・ナメコのみぞれ和え・油揚げなどのごった煮:。

山村さんが仲間の協力を得て3日前から準備していたことや全て無農薬だと聞き参加者は驚愕しながら次から次へと箸を動かしていた。



芋煮会